

## 企画セッション：2F1

# オープンソースシステムの導入・運用について

## - 大学とベンダーとの役割分担 -

企画部会： オープンソース技術部会

オーガナイザー： 大西 淑雅（九州工業大学）

### セッション概要：

オープンソース技術部会は、各種オープンソースソフトウェアを活用するために、会員各組織内の利用実態調査や活用に必要な技術を修得すべく合同研修、共同開発、標準化を行うことを目的として活動している。Moodle や Mahara 等といったオープンソースの学習支援システムは国内の大学でも多く利用されているが、必ずしも学内の情報系教員や情報部門の技術者のみが担当して構築・カスタマイズしているのではない。むしろ、ベンダーと協力して対応している大学・組織が大半であろう。また、導入時だけでなく運用、更新などシステムのライフサイクルに合わせた協力体制の構築も必要である。

ここでは、大学とベンダーとが協力してオープンソースの学習支援システムを導入・運用した事例を元に、大学とベンダーとの役割分担等、大学側が留意すべき点についての議論を行いたい。

### 講師・事例提供者：

川原 稔（愛媛大学・総合情報メディアセンター教授）

愛媛大学における Moodle システムの構築と運用（仮題）

奥村 勝（福岡大学・総合情報処理センター准教授）

福岡大学における Moodle システムの構築と運用「単独導入から、大規模導入への切り替えへを通じて」

福岡大学では、教育支援向けサービスとして平成 22 年より、Moodle サービスを学内へ提供してきた。平成 27 年 9 月に 5 年ぶりに Moodle システムの刷新を行い、v1.9 系から最新の v2.9 系へと移行した。この度のシステム更新では、従来の Moodle システム単独での導入から、大規模な教育研究システムの一部としての導入へと導入方法が変更となり、システム構成や構築プロセス、ベンダーとの関わりなども大きく変わることとなった。今回の発表では、これらの導入方法の違いから、得られた事案を中心に紹介する。

宮崎 誠（畿央大学・教育学習基盤センター特任助教）

OSS による教育学習支援エコシステムの構築を考える

熊本大学、法政大学、畿央大学での e ポートフォリオによる教育学習支援環境の開発・構築経験から OSS を活用することによる大学とベンダー、大学と大学との協力のあり方と OSS コミュニティへのコミットメントについて考えたい。具体的には、まず大学とベンダー間でシステム開発についてどのように分担すべきなのか、また、他大学と OSS の成果をどのように共有して育てていくことができるのか、これまでに携わった開発事例から紹介する。また、OSS の開発には、グッドプラクティスの共有などコミュニティの役割が大きく、日本でユーザコミュニティが本家にどのようにフィードバックできるか Sakai と Mahara を例に考えたい。